

Gコース、水木しげるさんの原風景・境港と日本最大の太陽光発電所、水鳥公園コース

■今回のコースで、エコツアーガイドとして苦勞したこと

1. 観光地ガイドの経験はあるが、エコツアーと特別な名前がついているので、その概念がよくわからず、どのような話を中心に持ってくればいいのか悩んだ。

2. バスの中での話を組み立て方について、目的地がわりと近距離に点在していて、目的地に移動するのに時間があるようでないところもあり、目的地につくまでの時間のうちにこれから行く目的地の概要、行ってきた目的地についての補足的なマル秘話的なことや、目的地を見ているから話して理解できる目的地をさらに印象づける話などをどのくらいまで詳しく、細かく話すことができるのか想定するのに悩んだ。

3. 参加者に話す内容を組んでいくのに、参加者の年齢などが事前に把握できなかったので、話す内容の構成を決めるのが難しかった。

観光目的の参加者を想定していたが、実際の参加者は観光や、エコツアーについて勉強をしておられる学生さんばかりで、あらかじめ準備していた話の内容を変更する必要があった。

■エコツアーガイドとしての自己改善点（「次はこうしたい」など）

1. モニターツアー参加後、再度コース移動の時間を計ったり、現地を下見に行ったりしたかったのだが、時間をつくることができなかったので、もっと綿密な時間の把握など必要と思った。（場当たりので終わってしまわないように）

2. 地元のことでも知らないことが多いので、参加者がどの年齢層であっても興味を持ってもらえる話ができるように、話のネタを深く勉強しておく必要があると感じた。（知識不足）

3. 現地ガイドさんの話を事前に聞くことができたなら、ガイドさんの話の前後で自分の話す内容に盛り込んでいけたので、事前に聞いておくとよいと思った。

■今後、今回のコースを商品化していくにあたって必要だと思うこと。
（課題の解決に必要なと思うこと）

報告会でファシリテーターの方が報告会のときに話していたが、内容がもりだくさん含まれたコースだったので、盛り込まれた目的地に共通のテーマを持たせるのは難しいと思った。話を組み立てるにあたって、話の内容にブレが生じ、概念を持ったツアーではなく、場当たりに観光地を案内するだけに終わってしまうと感じた。

水木しげるロードは文化的資産、美保神社は歴史的資産、ソーラーパークはどちらかというと産業的資産、水鳥は自然的資産なのでそれぞれ通り道ではあるが、分けたほうが良いと思った。

(参加者も理解しやすいし、ガイドとしても話をしやすい)

このコースは、現地に行くと町を散策し楽しむ場所が多いので、時間を細かく区切ってあちこち行くのではなく、限られた場所でゆっくり時間を過ごすことをウリにしたほうが良いコースだと思った。

プログラムをつくるにあたって、関係者同士の早めの事前打ち合わせが足りず、場当たりのようなことが多かったので、ツアーに関わる人たちがツアーを組み立てる際には、綿密な打ち合わせをし、それぞれの役割を果たすだけでなく、共有意識を持つことツアー参加者によりよいおもてなしができると思った。

統一したガイド教育や研修（話の内容からツアー運行上の安全に関する知識など）が不可欠と思う。

商品化して行くのであれば、ガイドによる当たり外れが大きいのは商品企画のイメージダウンにつながると感じた。

このコースに限ったことではなく、ツアーの楽しみの1つは「食」なので、企画する側としては、その部分にも重点をおく必要があると感じた。

また、コースによっては買い物をする時間も参加者の楽しみの1つであるので、少しは入れていたほうが良いと思った。